

1. 調査研究に関する情報の収集について

- ・地震、津波、火山、水害、土砂災害等の自然災害全般を対象に、
 - ①大学、政府関係研究機関等で実施している防災対策に係る調査研究の収集方法
 - ②大学、政府関係研究機関等で防災対策に反映できる調査研究成果の収集方法

2. 調査研究に関する情報の整理について

- ・整理にあたってのカテゴリライズ、タグ付けの設定
 - ①災害別(地震、津波、火山、…)
 - ②実施機関別
 - ③内容別(減災に関する調査研究、被害想定に関する調査研究 等)

3. 調査研究に関する情報の共有について

- ・防災関連調査研究を共有するための仕組み(共有化により連携、調整を促進)

4. 防災対策ニーズの把握

- ・国、都道府県、市町村の機関に対して防災対策を進めていく上で必要な調査研究についてヒアリング・アンケート調査を実施。

5. 防災対策に関する調査研究の現状と防災対策ニーズとのマッチング

- ・整理された情報を踏まえた調査研究の現状と防災対策のニーズを分析し、課題等を抽出。
- ・今後、重点をおいて実施していく「重点テーマ」を設定し、各テーマにおける今後の調査研究の方向性を整理
- ・1. ②を踏まえ、調査研究成果を防災対策に反映する機関を調整

6. フォローアップ

- ・1. ②を踏まえ、調査研究成果の防災対策への反映状況を把握
- ・1. ①について、特に重要な調査研究は定期的に実施状況をとりまとめ
- ・以上について、防災対策実行会議に適宜報告

各年度における議論の流れ(イメージ)

H26年度 (WG立ち上げ期)

H27年度 (移行期)

H28年度以降 (フォローアップ期)

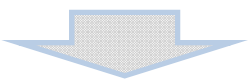
【第1回(～第2回)】

○検討会の趣旨説明、論点提示

- ・様々な機関が調査・研究を進めている現状において、調査・研究の実装に向けての課題

○情報の収集範囲・収集方法

- ・防災に係る調査・研究の収集対象範囲の設定
例) 自然災害全般(地震、津波、火山、水害、土砂災害等)
- ・防災に係る調査・研究の収集方法
例) 研究課題単位、学会単位、研究機関単位、検索サイト単位、研究者単位、論文単位



第1回:趣旨及び論点を踏まえ、フリーディスカッション。
第2回以降:前回議論を踏まえた論点整理。

➤ 年度内2回程度開催予定

【第3回～第5回】

○情報の整理方法・共有の仕組み

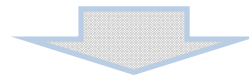
- ・収集した防災対策に関する調査・研究のカテゴリライズ、タグ付けの設定
- ・情報共有化のための仕組みの検討

○防災対策ニーズの把握

- ・関係者ヒアリングやアンケート調査などを通じて、防災対策のニーズについて把握

○調査研究の現状と防災対策ニーズのマッチング

- ・整理した情報を踏まえた調査研究の現状と、防災対策のニーズを分析し、課題等を抽出。



調査・研究の現状と防災対策ニーズとのマッチングを踏まえ、今後の調査・研究の推進の方向性について議論。次年度以降のWGの進め方を確認。

➤ 年度内3回程度開催予定

【第6回以降】

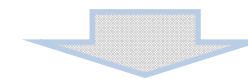
○フォローアップの実施

【年度前半】

- ・前年度における調査・研究の実施状況・進捗状況の確認。
ポータルサイトの運用状況等の把握。
- ・特に重要な調査・研究については、定期的に実施状況をとりまとめ、中央防災会議・防災対策実行会議に報告

【年度後半】

- ・各災害対応主体における調査・研究の実装と防災対策のニーズのフォローアップ
- ・重点テーマの設定及び各テーマにおける今後の調査研究の方向性の明示(約●年を目途に重点テーマを再設定)



持続的、効果的、効率的、戦略的に調査・研究を推進するための仕組みを構築。

➤ 各年度2回程度開催予定